

956-14

昭和43年度 自昭和43年4月1日
至昭和44年3月31日

事業報告
決算報告書

財団法人 日本常民文化研究所



956-14

昭和43年度事業報告・財産目録・貸借対照表・損益計算書並
に損益金処分案は次の通りであります。

昭和44年5月15日

財団法人 日本常民文化研究所

理事長 有賀喜左衛門

理事 宇野脩平

〃 桜田勝徳

〃 渋沢雅英

〃 中山正則

〃 宮本馨太郎

〃 宮本常一

〃 山口和雄

監事 小宮山若木

〃 ~~水島裕三~~
高木一夫

目次

- (一) 事業報告
- (二) 貸借対照表
- (三) 損益計算書
- (四) 財産目録
- (五) 損益金処分案

(一) 事業報告

昭和43年度は、「民具辞典」の800項目の選定をおわり、編集委員による、責任分担の大割りを決めた。

民具研究同人間の組織化をはかる目的で、「民具マンスリー」を書肆慶友社と提携のもとに発刊せしめ、月刊にて、会員に配布した。あわせて、「民具論集」1を、年報として編集発刊し、大学、研究機関等と資料交換を行った。漁業史研究の分野は低調におわった。



956-14

昭和43年度

損益計算書

昭和44年3月31日現在

公 益 部		勘 定 目 科	収 益 部		合 計	
損失の部	利益の部		損失の部	利益の部	損失の部	利益の部
金額	金額		金額	金額	金額	金額
27,600		職員給与	828,000	1,104,000		
14,376		旅費交通費	75,064	89,440		
2,905		会費	29,652	32,557		
3,269		消耗品費	18,527	21,796		
6,329		印刷費	25,316	31,645		
12,506		通信費	51,002	63,508		
7,190		民具マンスリ	-	7,190		
3,600		共費	20,400	24,000		
2,174		資料蒐集費	47,733	69,474		
22,589		調査費	128,011	150,600		
26,250		労賃	78,750	105,000		

185,710		公租	5,000	190,710		
11,436		荷造運搬費	46,844	58,280		
2,771		雑費	15,708	18,479		
		繰越在庫	200,000	200,000		
		売上金			277,750	277,750
		印税			246,500	246,500
	27,500	預金			8,490	35,990
	1,500,000	地代				1,500,000
	110,000	奇附				110,000
	34,000	配当				34,000
		棚卸在庫			400,000	400,000
661,388	1,671,500	小計	1,570,007	2,231,395	932,740	2,604,240
1,010,112		当期損益		1,010,112	637,267	637,267
1,671,500	1,671,500	計	1,570,007	3,241,507	1,570,007	3,241,507

昭和43年度

財産目録

昭和44年3月31日現在

公益部

資産之部

土地	2,167,280.00 円	芝三田綱町11番地及び全上綱町10番ノ8所在土地約406坪
建物	431,570.00 円	港区芝三田綱町11番地所在木造重鉛メッキ鋼板葺平家居室1棟建坪21.25坪 附属建物木造瓦葺平家居室1棟建坪23.50坪(不動産取得税加算)
有価証券	360,000.00 円	清水建設株式会社株券2,000株(評価)300,000.00円 全上増資新株券1,200株 60,000.00円
預金	536,500.00 円	才一銀行銀座支店定期預金 500,000.00円 協和銀行吉祥寺支店普通預金 36,500.00円
元入金	2,587,711.00 円	収益部運営資金として元入

負債之部

基本金	500,000.00 円	才一銀行銀座支店定期預金
通常財産	2,253,437.00 円	資産之部掲上土地・建物・有価証券
積立金	1,619,848.00 円	既往年度の益金繰入

収益部

資産之部

預金	2,816.30 円	協和銀行吉祥寺支店普通預金15,000.00円 振替貯金局振替貯金13,163.30円
繰越損金	1,617,075.00 円	既往年度に於ける損失金繰入額
棚卸在庫高	400,000.00 円	奥能登時国家文書其の他
負債之部		
元入金	2,587,711.00 円	運営資金として公益部より元受
借入金	100,000.00 円	運営資金として渡沢氏より借入
預り金	1,200.00 円	昭和44年1月~3月分源泉所得税

以上

956-14



956-14

昭和43年度

損益金処分

昭和44年3月31日現在

公 益 部		
当期益金	1,010,112円	
処 分		
	出版準備積立金へ繰入	300,000円
	積立金へ繰入	710,112円
	計	1,010,112円
	差引残額なし	

-10-

収 益 部

当期損失金	637,267円	
処 分		
	繰越損金に繰入	637,267円
	残額なし	

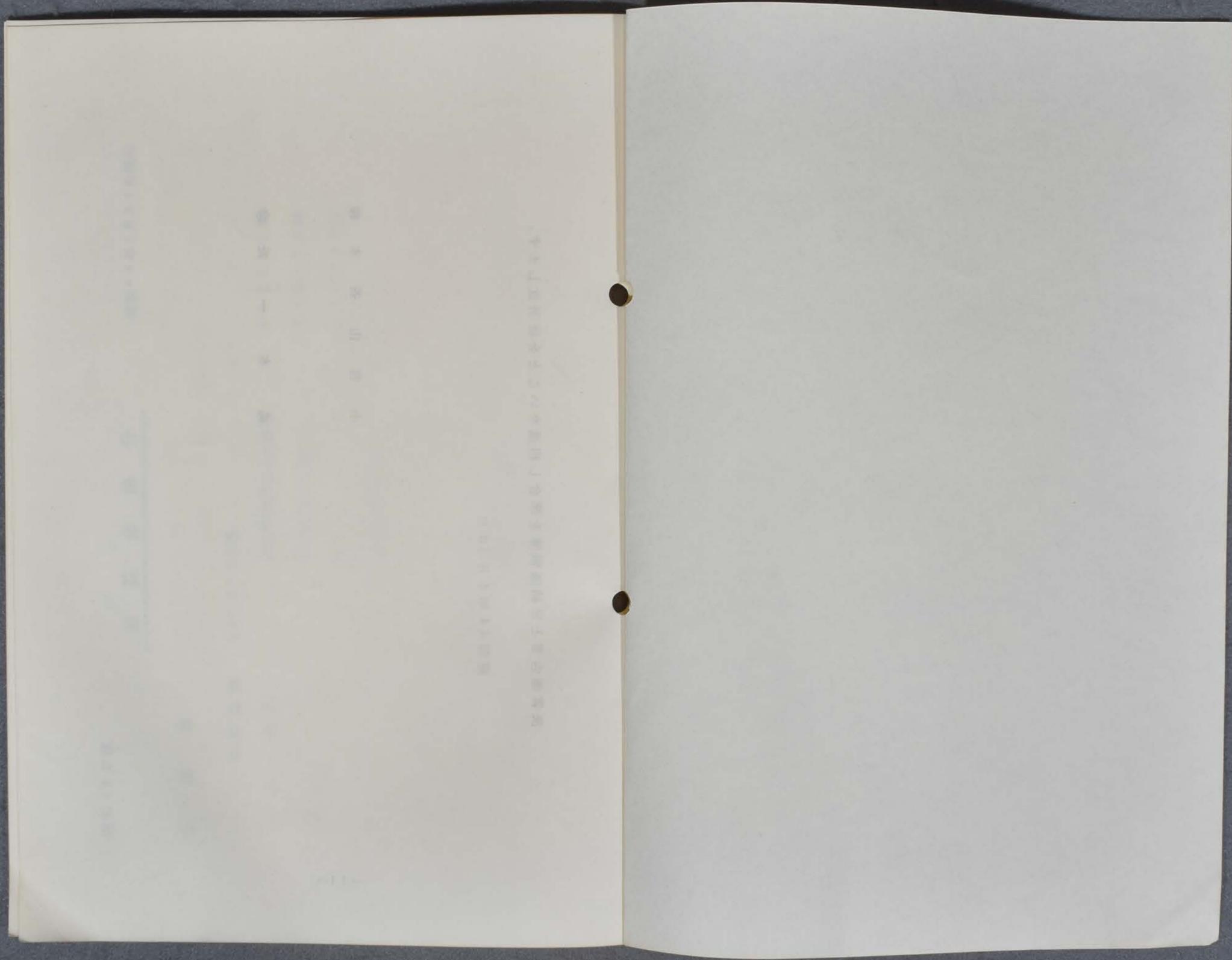
-11-

決算報告書と出納諸帳簿を照合し相違ないことを証明致します。

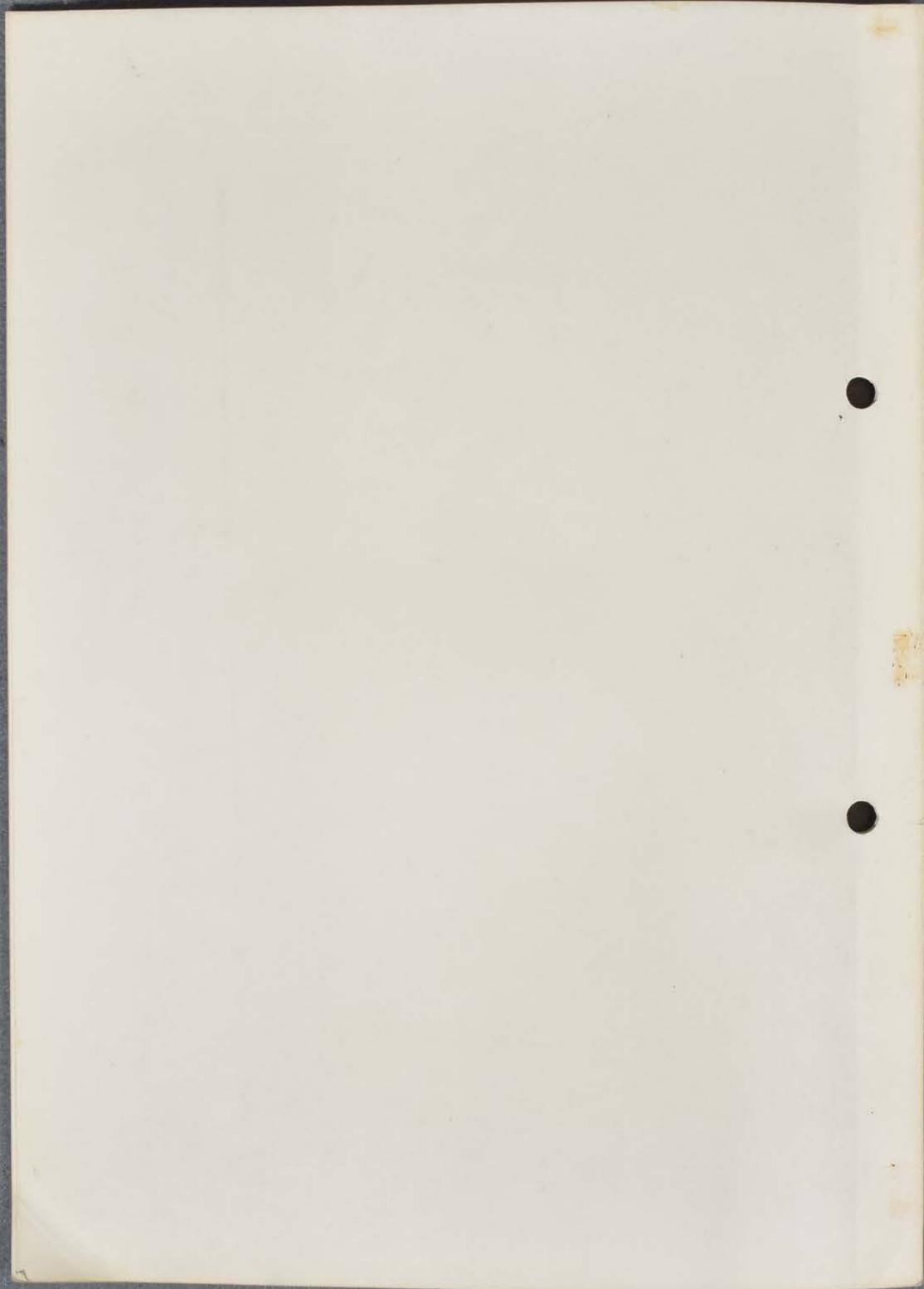
昭和44年4月30日

小 官 山 若 木 印
 高 木 一 夫 印

956-14



956-14



956-5

昭和44年度

事業計画

収支予算書

財団法人 日本常民文化研究所

(一) 事業計画

昭和44年度は、継続の「民具辞典」の原稿とりまとめの目途をつけること、また青梅市およびその周辺の民俗緊急調査を担当、調査班を編成して、2ヶ年継続にて行う。定期の編纂刊行としては、民具論集、および民具マンスリーを前年度にひきつづいて行い、民具研究同人間の組織化をはかるとともに、その研究成果を集録すること、なお漁業史研究の分野は低調であるが、人物を通して近代漁業史をひきつづきとりあげ、漁業史部会によってその蓄積をはかる。

I 「民具辞典」の編纂および「民具論集」「民具マンスリー」の編纂刊行
前年度では、約800項目の項目選定がおわり、執筆分担責任者を決定したので、本年度は、執筆要綱の作成、さらに執筆者の依頼を早急におこない、年度内には原稿とりまとめの目途をつけたい。さらに収載写真、図版の選定を平行しておこなう。

「民具マンスリー」は、2年目に入り、さいわい好評のうちに、民具研究者の連けいが保たれはじめ、これを基礎にして、民具問答形式による資料蒐集、また投稿資料の蓄積をはかること。

「民具論集」は、ひろい意味での民具方法論の確立をはかる実験の場とし、また主たる研究の担い手たる地方在住研究者の成果をとりあげる場として、研究所の年報として、学会ならびに一般に提供する。

II 青梅およびその周辺民俗緊急調査

研究所として、民俗調査のフィールドを、青梅市域にもち、民具調査をはじめてきたが、昭和44年度に青梅市が、文化庁による、民俗資料緊急調査の補助対象となり、研究所に青梅市から、調査班の編成を依頼してき

たので、これを機会に、青梅市及び奥多摩地区をとりあげ、就中、民具資料の蒐集および、ひろく民俗行事における民具の位置づけを試みる。なお調査員の大半は研究所外の若手であり、そうした協力者の組織化による、調査研究の実験をおこなうことに主眼を置いている。

Ⅲ 漁業先覚者を通してみた近代漁業史の研究

山口和雄教授を中心とする、上記の課題を継続して研究会形式による運営をつづける。

明治期の日本漁業は、旧藩時代いらいの、沿岸、沖合漁業の成熟、矛盾にたいして、おもに末期にはじまる、漁業における資本主義の本格的展開をあわせみることによって、日本の水産業の発展をみる上から、あるいは比較漁業史の観点からみても、もっとも重視すべき時期であると思われる。さらに明治以降の近代漁業史は、漁船の動力化を頂点として、漁業技術の改良、発明、漁場の開拓があいついでいる。こうした発展過程を、地域的特性とともに、漁業先覚者とよばれる、人物を中心にとりあげることにより、またその背景には、従来手がけてきた漁業制度史料の蒐集研究を生かして、「漁業先覚者を通してみた近代漁業史」をまとめていく方向でとりくみたい。

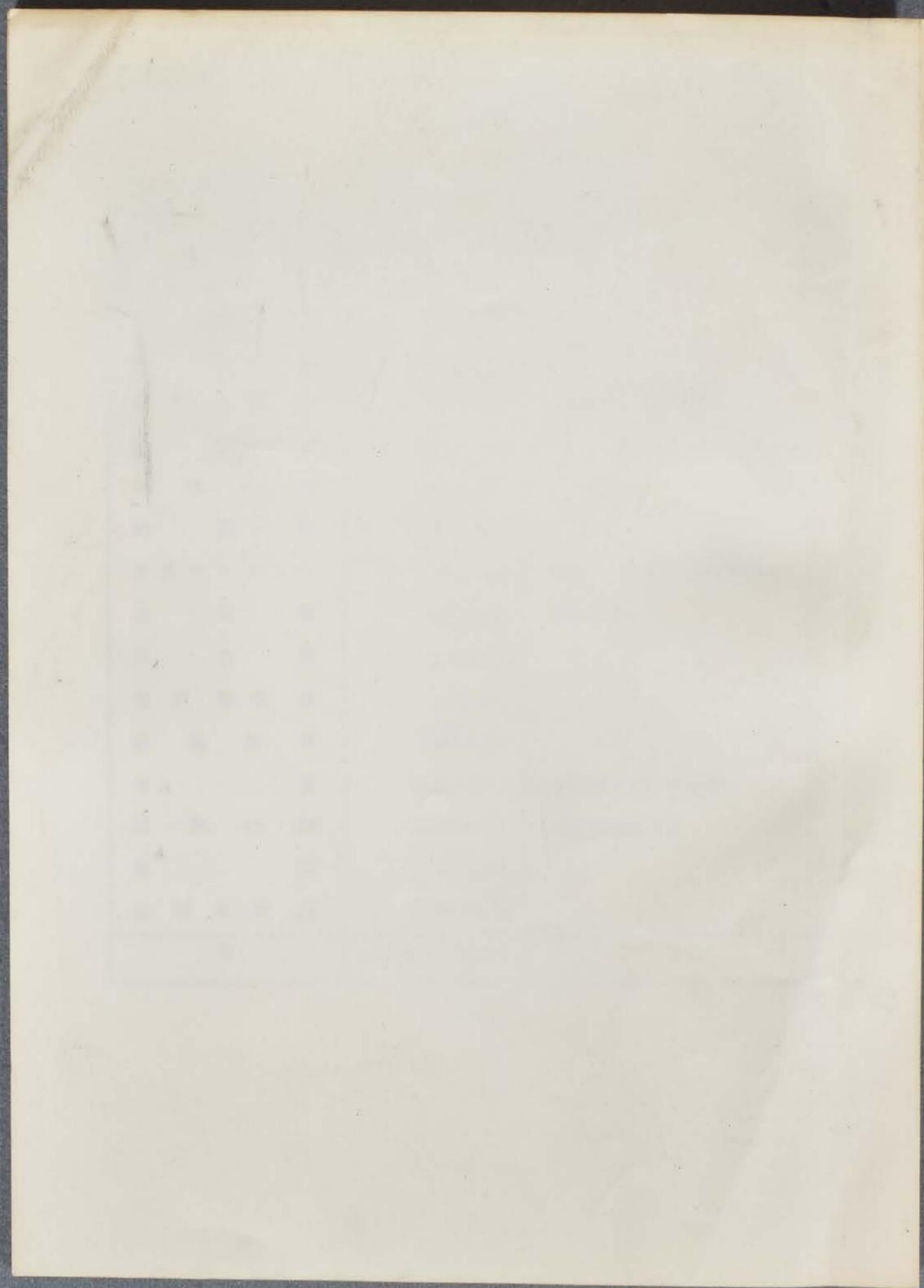
昭和44年度 収支予算

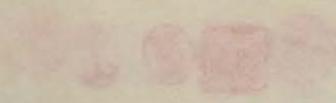
収入の部			
項目	区分	予 算 額	備 考
定期預金利息		27,500	50万円才一銀行銀座支店
株 主 配 当		34,000	清水建設株式3400株
地 代		1,500,000	
出版物売上金		500,000	
補 助 金		0	
寄 付 金		100,000	
前年度繰越金		0	
計		2,161,500	

支出の部

区 分 項 目	予 算 額	備 考
役 員 給	0	
職 員 給	1,030,000	69,000×16
旅 費 交 通 費	90,000	交通費補助を含む
会 合 費	30,000	
消 耗 品 費	20,000	
印 刷 費	20,000	
民具マンスリー	70,000	民具マンスリー印刷費ほか
通 信 費	55,000	電話料ほか
共 益 費	24,000	
資 料 集 集 費	60,000	
調 査 旅 費	150 150,000	
労 賃	100,000	会計整理費、その他
租 税 公 課	200,000	固定資産税ほか
雑 費	12,000	
紀 要 出 版 費	300,000	
計	2,161,500	

956-5





昭和四十四年度
第一回評議員會議事録

財団法人

日本常民文化研究所

紅田宗堂



（西暦）





昭和四年四月度 評議員會議事録
 一 日 時 本 昭 和 四 年 之 身 三 日 未 右 五 時 十 分 時
 二 場 所 中 央 延 入 堂 洲 以 三 石 興 七 地 階 公 議 堂
 三 出 席 者 評 議 員 有 須 喜 喜 友 行 的 評 議 員 二 野 瓶 德 夫
 四 評 議 員 河 岡 武 春 念 祝 官 本 常 一
 永 島 裕 三 山 田 明 男
 網 野 善 彦 波 澤 雅 英
 磯 貝 繁 勇 高 木 一 夫
 野 田 雅 敏 河 内 利 美
 紅 田 共 豊 野 澤 邦 夫

委任状に
署名
林



昭和四年四月度
評議員會議事録

相国起入

日本常員文部省





員異議なく之れを承認し也。
 ○ 議案第廿三号 昭和四十四年度事業計画及び収支予算算承認
 ついて議長が指名により河同所員が、事業計画及び収支
 収支予算算を読みあげ、之れを四号全員異議なく承認し
 也。
 ○ 議案第廿四号 役員改選の件 理事改選の件 議長が
 議長、理事の改選につき、諮らるるを、評議院議員より
 杉本好雄評議院議員を理事長に推薦する旨の提案があり、
 議長が之れを採り、結果、全員異議なく之れを承認し
 した。
 ○ 議案第廿五号 理事改選の件 議長が、理事改選の件、
 理事の留任を不願致すは、全員異議なく之れを承認し



四、議事要領
 有賀喜友衛門議長となり、開会を宣し、定足数に達
 したる旨を告げ、ついで議事録署名人名に永島裕三、二野
 瓶徳夫、両評議院員を指名して、議事をし入る。
 ○ 議案第廿六号 昭和四十四年度決算承認の件
 議長が指名により河同所員が、まず四月三十日 小宮山
 若木、高木、一夫、両監事より監査をうけた旨を告げ、
 ついで事業報告を読みあげ、収支決算について報告をなし、全
 員異議なく之れを承認し也。
 小宮山 若木
 櫻田 勝徳
 佐々木 繁詠
 山口 和雄
 萩原 道之
 官嶋 喜秀
 計 二十二名

〇 議案第八号 漁業制度資料筆写本、三田綱所へ移
 〇 議長の指名により河岡所員が、昭和三十五年より三十二年
 まで、水産庁の委託による資料事業にあつて筆写した
 筆写本は、月島分室の解体後、宇野脩平氏の奉
 職する東京女子大学に保管されてきたが、宇野脩平
 氏死去にもない、後事を託す小石同窓新井浩氏と
 接洽中であり、その研究所の返還の見通しがあること
 を報告したところ、議長は、小石まごり各籍があること、
 少の時間制がわつても、先か遺族とも諒解したうで、移
 管をいの方かよりの便宜があり、全員の小石を戻すこと

以上で全議案を終了し、議長例会を止ました。
 昭和四十四年六月二日

議長

有賀喜左衛門

署名人

永松 祐三

署名人

二野 雅徳夫



十三四



昭和四十四年度

第一回理事會決議事項

一日 時 昭和四十四年六月二日 午後五時十七分

三場 昭和四十四年度 第六十三 石興堂以陽公成生

三出席者 才一回 理事會決議事項 中山正則

一、理事會決議事項 本會理事會決議事項

二、理事會決議事項 本會理事會決議事項

三、理事會決議事項 本會理事會決議事項

四、理事會決議事項 本會理事會決議事項

財団法人

日本常民文化研究所



Handwritten text in vertical columns on the right page, including names and dates.





○ 議案才一号、役員改選、件一、
 議長 評議員、改選、件一、
 一、前年度と同構成、
 員異議なく承認、
 一、評議員、
 三、
 市川 信次、
 遠藤 一、武、
 河岡 武春、
 小宮 正、
 櫻 月藤、
 速水、



○ 議案才一号、昭和四十四年度決算承認、件一、
 議長の指名により、河岡所員が、
 山若木、高木一夫、
 職員異議なく承認、
 一、
 一、
 一、
 一、

佐々木繁环
 浪澤雅英
 杉本行雄
 高木一夫
 竹内利美
 一本ん休伯心し評議員会ありと新理事とて頭書り
 三名により継続して議事かもたれた。
 ○議案才四号 理事長の互選および監事選任の件
 評議員会により新たに選任せられた理事により、たまた
 ぬ理事会かもたれ、中山理事長の発言により中山正則氏
 を議長に指名し、中山議長により理事長を互選した事
 旨の発言あり、互選の結果、有賀喜友樹氏を理事
 長と選ばれた。役員表を附す。

(十三号)

〇監事と小宮山若木高木一夫両氏の選任は、
 〇議案才五号 三田綱町に於ける建設に
 議長の指名により河同所員が杉本行雄氏による十和
 田觀光愛鉄(株)の事務所および従業員寮の建設計
 画の概要を述べ、本年十月着工、来年八月完成、地下
 一階、地上八階、延二一九七坪、方メ一三、うち五階
 の上階ありを世續提供の意向あり、此際、時点、杉
 本氏より間心、地上権契約および借地権契約を結ぶに
 必要あり、議事より右に開しては中山正則氏
 に一任の旨あり、議案才五号、常民文化叢書四十四年度分刊行の件
 〇議長が指図書より河同所員より、友の三冊を慶友社と
 も協賛の旨、本年度下刊行せしむこと



測り意向もあり、時間的経過とともに若観条件もかゆ
 屋敷長より内容的に不かりしものにするに、また、
 かたがみと相違り時自を要する。ともなかつたこと、別
 紙のとき事領にて、余編執筆期限を、上限四十五年六
 月、下限四十五年十二月、写真図版の選定をふくめて、
 総編完成が四十六年十二月となることに編纂委員会にお
 りてもきまつたことを報告し、この全員の了承を得た。
 なお議長より、誠員 田方氏が病に倒れ、以後、その編
 纂委員長を代行して、村田勝徳氏を、代行した。委員
 委員長として、以後週一回研究所に出る。全体の推進にあ
 たり、その進捗の目をはかり、その進捗の目をはかり、その進
 捗の目をはかり、その進捗の目をはかり、その進捗の目をはかり、
 〇 議案第九号の漁業制度資料筆写本、三田綱町へ

移管の件

議長の名指により、河同所員が、昭和三十五年より三十年
 まで、水産庁委託による資料事業において筆写した資料
 本は、月島分室の解体後、宇野脩平氏の奉職する
 東京女子大学に保管されてきたが、宇野脩平氏死去
 により、後事を托された同窓新井浩氏と接洽中
 であり、その研究所への返還の見通しがあることを報告し
 たところ、議長より、このままの全編があるが、その時
 間がかかっても、充分進捗とも諒解したうえで移管し
 た方がよいと発言があり、全員これを了承した。
 以上で全議案を終了し、議長南会を宣した。

昭和四十四年六月廿一日

以上

